

先行策定市町村における 子育て支援施策取組事例集

1. 北海道札幌市	1
2. 北海道岩見沢市	8
3. 北海道勇払郡早来町	10
4. 北海道網走郡美幌町	17
5. 岩手県宮古市	22
6. 宮城県岩沼市	24
7. 宮城県遠田郡田尻町	26
8. 山形県最上郡最上町	29
9. 福島県喜多方市	31
10. 福島県西白河郡表郷村	34
11. 福島県双葉郡葛尾村	37
12. 茨城県水戸市	39
13. 埼玉県新座市	41
14. 埼玉県秩父市	43
15. 千葉県市川市	45
16. 千葉県佐倉市	54
17. 千葉県印旛郡栄町	56
18. 東京都世田谷区	62
19. 東京都新宿区	66
20. 東京都足立区	72
21. 東京都三鷹市	75
22. 神奈川県秦野市	77
23. 福井県福井市	79
24. 福井県坂井郡丸岡町	81
25. 山梨県山梨市	83
26. 山梨県南都留郡山中湖村	87
27. 長野県佐久市	89
28. 静岡県駿東郡長泉町	99
29. 愛知県高浜市	101
30. 愛知県西春日井郡師勝町	105

31.	愛知県東加茂郡足助町	1 1 0
32.	滋賀県守山市	1 1 3
33.	京都府舞鶴市	1 1 5
34.	大阪府枚方市	1 2 3
35.	大阪府四条畷市	1 2 5
36.	兵庫県伊丹市	1 2 9
37.	奈良県橿原市	1 3 2
38.	鳥取県岩美郡岩美町	1 3 7
39.	鳥取県日野郡日南町	1 4 0
40.	岡山県岡山市	1 4 4
41.	岡山県都窪郡清音村	1 4 7
42.	広島県三次市	1 5 0
43.	山口県宇部市	1 5 3
44.	香川県善通寺市	1 5 5
45.	高知県南国市	1 5 7
46.	福岡県朝倉郡夜須町	1 6 2
47.	佐賀県佐賀市	1 6 4
48.	長崎県佐世保市	1 6 6
49.	熊本県八代市	1 6 8
50.	熊本県菊池郡大津町	1 7 3
51.	熊本県阿蘇郡一の宮町	1 7 6
52.	大分県津久見市	1 7 8
53.	鹿児島県鹿児島市	1 8 1

子育て支援施策取組事例

【市町村名】 札幌市

(平成15年4月1日現在)

人 口		保 育 所		幼稚園 (14.5.1 現在)	
総人口	児童数 (うち 就学前児童数)	か所数	定員数	か所数	定員数
1,837,901 人	299,670 人 (90,951 人)	168 か所	14,579 人	151 か所	32,486 人

(概況及び特色)

本市の人口は着実に増加しているものの、昭和49年をピークに出生数の減少が続き、平成13年の合計特殊出生率が1.04と政令指定都市の中でも最低の水準となっています。

平成10年4月の就学前児童数は、95,178人でしたが、平成15年4月には90,951人と一年当たり850人程度の減少がみられます。

一方、保育状況は、平成15年4月の入所児童数が15,055人、待機児童数が184人と毎年390人程度(過去5年間の平均)の保育需要が増加しています。

(子育て支援施策の現状)

保育所については、平成15年4月現在、認可保育所数168所、定員15,055人となっており、増加する保育需要への対応として平成14年度には750人の定員増を図ったところであります。

また、特別保育事業については、多様なニーズに対応するため、乳児保育や延長保育などを積極的に進めております。

「地域子育て支援事業」の本市独自の取組みとして、各区に子育て情報室を設置し、子育て講座、相談、情報提供などを実施しています。

さらに、市内の児童会館(99館)で子育てサロンを実施し、親子の交流の場の提供、遊びの紹介等のほか、子育てサークル・リーダーの育成等の支援を行いました。

また、地域で子育てを支える環境づくりとして、子育てボランティアの育成・活動支援、講習会、研修会などの実施や、地域での子育て家庭を支援するため、民生・児童委員、主任児童委員、社会福祉協議会の代表、児童会館長、公立保育園長等と会議を開催し、子育て支援ネットワークづくりを進めています。

(子育て支援施策の課題・展望)

本市の合計特殊出生率は大都市のなかでも低水準で推移しており、深刻な問題となっています。

少子化問題は、国レベルの大変重要な課題であり、現在、国が法制化を進めている次世代育成支援対策推進法や関係法令の整備をはじめ、家庭・学校・地域・企業・行政などがそれぞれの機能を分担し、相互に連携を図りながら、社会全体で早急に対応していく必要があります。

現在の保育の状況は、少子化により児童数が減少しているにもかかわらず、入所児童が増える傾向にあります。

また、核家族の増加や家庭及び地域における子育て機能も低下しており、育児に対する不安や負担感が増しており、児童虐待なども発生しています。

今後は、子どもにとっての視点を基本に置きながら、相談体制や子育てを支援する方策について検討するとともに、市民への少子化に対する関心を高めるなど、安心して子どもを生き育てる環境づくりのための諸施策の充実を図ります。

<取組事例（平成15年度）>

1 子育ての仲間づくり・「子育てサロン」

（目的）

子育て家庭が自由に集い、遊びを楽しむことなどを通して、地域の人たちとふれあえる場を提供することにより、親子の関わりや他の親子との交流を深めることができるよう支援する。

（事業開始年度）

平成9年度

（内容）

(1) 事業内容

- ・乳幼児を持つ親同士の自由な交流や親子遊びの紹介、子育てサークルの育成、子育て相談などの場として、児童会館（99館）で開催。
- ・子育てボランティア、民生委員児童委員、主任児童委員など地域の方々が参加している。
- ・0歳から就学前の子とその保護者、これから親になる方などが参加できる。

・平成14年度実績

会 場：児童会館 99館

参加組数：135,011組

参加登録数：13,958組

(2) 事業費

（56,607千円）

2 情報提供・「子育て講座」

（目的）

子育て中の親や子育て家庭の不安感・負担感が軽減できるよう、乳幼児の健全な心身の発達の理解や親・家庭の果たす役割、親と子の関係などについて学ぶことを通して親の育児力の向上を図る機会とする。

（事業開始年度）

平成9年度

（内容）

(1) 事業内容

- ・対象：就学前の乳幼児を育てている保護者
- ・実施回数：0歳～2歳児向け：各区ごとに年3回（各回3日間）実施
3歳～5歳児向け：各区ごとに年2回（各回1日間）実施
- ・会 場：区役所、区民センターなど
- ・託 児：別室で子を預かる。
- ・平成14年度実績
回 数：50回（1区あたり5回）
人 数：837人

(2) 事業費

（56,607千円）

3 子育て支援のネットワークづくり・「子育て支援検討会議」

(目的)

子育て支援に関する機関や地域の団体と情報交換などを行う会議を開催し、子育て支援のネットワークづくりを進めている。

(内容)

(事業開始年度)

平成10年度

(1) 事業内容

- ・各區ごとの全体会議と各地区単位の会議を定期的に開催している。
- ・地域の子育ての家庭の状況や具体的な支援の取り組みなどを検討。
- ・構成：福祉のまち推進センター、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、主任児童委員、保健センター、幼稚園、保育所、児童会館、区子育て支援担当係、家庭児童相談員、連合町内会、地区社会福祉協議会、学校、子ども会、ボランティア団体等

・平成14年度実績

区全体会議：11回（1回あたりの出席者数 平均47人）

地域別会議：118回（1回あたりの出席者数 平均15人）

(2) 事業費

(56,607千円)

4 子育て支援のネットワークづくり・「地域の親子のふれあい交流」

(目的)

親子が地域の人々とのつながりを持ちながら子育てができるよう、みんなで楽しめる行事とおして、地域の相互の交流が深められる場を提供する。

(事業開始年度)

平成9年度

(内容)

(1) 事業内容

- ・民生委員・児童委員、主任児童委員、中高生、子育てボランティアの方々や地域の方々の協力を得て、行事を開催。
- ・各區ごとに、児童会館、公園などで年数回。

・平成14年度実績

会場数：児童会館 99館、参加組数：16,905組、

屋外会場数：公園 延べ56箇所、参加組数：(7日) 6,443組

(2) 事業費

(56,607千円)

5 子育て支援のネットワークづくり・「地域との連携推進」

(目的)

子育て支援検討会議のメンバーのほか、町内会、青少年育成委員会、子ども会など、地域での子育て支援を担う団体や機関等、それぞれの取り組みや子育て家庭の状況、ボランティア活動状況について情報を共有化し、事業での協力などを通して連携を深める。

(事業開始年度)

平成13年度

(内 容)

(1) 事業内容

- ・町内会、青少年育成委員会など主催の行事への参加。学校、幼稚園、保育所などの情報交換等。
- ・平成14年度実績
事業の説明、情報提供等 187件

(2) 事業費

(56,607千円)

6 子育て支援のネットワークづくり・・「地域主体の子育て支援活動の促進」

(目 的)

地域の関係団体が主体的に行う子育て支援の取組みが一層広がるよう、子育て家庭の現状やニーズ、他地域での取組事例などを地域の関係者に伝えるとともに、活動を進めるための支援。

(事業開始年度)

平成14年度

(内 容)

(1) 事業内容

- ・地域が主催するふれあいの場、相談の場、話し合いの場などの立ち上げや運営に関する相談。
- ・職員が出向いての支援。
- ・遊具の貸し出し。
- ・子育てボランティアの紹介、保育所、幼稚園等への紹介など人的なネットワークづくりの支援。
- ・他地域の事例や、民間財団等を含めた経済的な支援制度などの情報提供。
- ・平成14年度実績
地域ふれあいの場（地域主催） 32か所

(2) 事業費

(56,607千円)

7 子育てボランティアの支援、育成・・「ボランティア講習会」

(目 的)

子どもやボランティア活動に関心のある人に対して、子育て家庭の状況や親子と関わる知識・技術、ボランティア活動の基礎などを学ぶ機会や、親子とふれあう機会を提供する。

(事業開始年度)

平成11年度

(内 容)

(1) 事業内容

- ・講習内容：子育て家庭の現状と子育て支援の必要性。子育ての基本的知識と実技（子どもの発達とあそびの大切さ。親子と関わるときの基本と子どもの安全・安定の確保等）、地域における子育て支援活動など。

- ・講師：各区子育て支援担当職員を基本とし、必要に応じて他部局や関係団体職員、地域で活動している人等。
- ・各区ごとに年2回開催。
- ・平成14年度実績 20回（1区あたり2回） 357人

(2) 事業費

(56,607千円)

8 子育てボランティアの支援、育成・・・「子育て支援ボランティア登録」

(目的)

講習会修了者など子育てボランティアとして希望する人に活動の場や研修機会、その他の活動に関する情報を提供し、効果的な支援ができるよう、必要な事項を登録する。

(事業開始年度)

平成11年度

(1) 事業内容

(内容)

- ・登録方法等：ボランティア講習会での登録、受講後の登録。随時登録。(親子とふれあうための活動に特段の支障がないことを確認したうえで、登録を受け付ける。)
- ・登録者の条件：子育て家庭への支援に情熱があり、ボランティアとして親子とふれあうために必要な配慮事項(子育て家庭の状況に理解や、守秘義務の遵守、子どもの安全確保、清潔保持等への配慮)を理解できる人。
- ・登録期間：原則として登録日の属する年度の翌年度末まで。更新した場合の期間は2年間とする。

- ・平成14年度実績

ボランティア登録者数 1,160人

(2) 事業費

(56,607千円)

9 子育てボランティアの支援、育成・・・「ボランティア交流会、研修会」

(目的)

- 交流会：ボランティア活動が活発化するよう情報交換や交流の機会を設ける。また、交流会をきっかけとした活動者のグループ化を支援し、地域に根差した自主的な活動を促進する。
- 研修会：希望者に対し、ボランティアの活動に関する知識や技術を向上させるための研修機会を提供する。

(事業開始年度)

- ・交流会：平成13年度
- ・研修会：平成10年度(区別)、平成12年度(全市)

(内容)

(1) 事業内容

- 交流会：運営に関するアドバイス。活動メニューの紹介(施設見学、活動事例の紹介、活動状況の報告など)などの支援をする。
- 研修会：親子と関わる基礎的な知識・技術。託児派遣ボランティアとしての必要な内容など。

- ・各區ごとに開催。
- ・平成14年度実績
 - 交流会 65回 532人
 - 研修会 39回 441人

- (2) 事業費
(56,607千円)

10 子育てボランティアの支援、育成・「託児ボランティアの派遣」

(目的)

子育て中の親の社会参加を支援するとともに、ボランティア活動の場の拡大を図る。

(事業開始年度)

平成11年度

(内容)

(1) 事業内容

- ・本市主催の事業を対象に、主催者からの要請に応じて託児ボランティアを派遣する。
- ・本市主催事業の範囲：市立幼稚園、市立保育所、児童会館、家庭教育学級。ただし、幼稚園、小学校等のPTAは、社会教育関係の自主的に活動する団体であるため、対象とならない。
- ・平成14年度実績
 - 託児ボランティア派遣人数 1,113人

- (2) 事業費
(56,607千円)

11 子育てボランティアの支援、育成・「グループ運営支援」

(目的)

グループを作って活動を進めることで、継続性、安定性の確保や活動範囲の拡大が可能となり、地域で子育てを支えるより大きな力となっていくことが期待できる。

(事業開始年度)

平成13年度

(内容)

(1) 事業内容

- ・活動の内容や、方向性、地域の人や団体とのネットワークづくりに関する相談に応じたり情報を提供する。
- ・運営の方法に関する相談（リーダー他の役割分担、会議の設定、進め方等）。
- ・平成14年度実績
 - ボランティアグループ数 40グループ

- (2) 事業費
(56,607千円)

子育て支援施策取組事例

【市町村名】岩見沢市

(平成 15 年 4 月 1 日現在)

人口		保育所		幼稚園	
総人口	児童数(うち就学前児童数)	か所数	定員数	か所数	定員数
83,572 人	14,008 人 (3,928 人)	14 か所	1,020 人	6 か所	1,200 人

<市町村の概況及び特色>

今年、開基 120 年・市政施行 60 周年の記念の年を迎えます。開基以来、農業、商業、工業などの産業が調和した道央空知の行政・経済・文化の中心都市として発展を続けてきました。

現在、このまちをさらに発展させ、住みよいまち岩見沢をすすめるため、市民が誇りと愛着を持つるまちを自らの手で築いていくことができる「市民本位のまちづくり」をすすめ、次に自らの責任と判断で行政の施策やサービスを決定し、実行していくことができる「自主自立のまちづくり」を基本姿勢としています。新しい岩見沢市基本構想の都市像である「生き生きとした緑の中の安全・健康・文化都市」をめざし、その具体化に向けて「人にやさしい温かい街づくり」を進めています。

<子育て支援施策の現状>

今年 4 月 1 日現在、就学前の児童の状況は、約 3,900 名おります。そのうち保育園及び幼稚園において集団生活をしている子どもは約 55%であります。家庭内保育は 45%であり、その 95%が 3 歳未満であります。

よって、施策として市独自に取り組んでいる「子育て親子ひろば」は、各児童館等で開催され、延べ利用親子数は、8,000 名を超える状況であります。また、子どもやお年寄り、障害を持った方々にも利用しやすい公園づくりを目指して「子どもの遊び場整備事業」として健康福祉部に予算をつけ毎年 2~4 ヶ所、市内のあちらこちらに特色ある公園を整備しています。

「子育てガイドブック」、「子育て Q&A」は、市のホームページからも見る事ができます。

さらに、安心して子育てができるよう関係機関が連携したチャイルドホットラインの相談体制や市内 3 か所ある子育て支援センターの合同事業などに取り組んでいます。

<子育て支援施設の課題、展望>

子育て支援に参加しない家庭のケアが問題と考えるが、事業の重層的な取組みを進めて空間ができないよう事業を展開していきたい。

<取組事例（平成 15 年度）>

1. 「子育て親子ひろば事業」

（目 的）

子育てをする親子が集い、子育ての苦労や喜びを分かち合い情報交換したり、子育ての先輩（支援者やサポーター）からノウハウを得ることができ、親子のコミュニケーションを深めるため。

（内 容）

（1）事業内容（具体的に）

平成 6 年に 2 か所で開催された子育て親子ひろばは、現在市内全域の 13 か所の児童館等で開催され、年間約 350 回の開催で、親子延べ 8,000 人以上、支援者を含めると 1 万人を超える参加者がいます。主任児童委員が各地域の中心となり、民生児童委員・保健推進員・地域ボランティアがサポートする体制となり実施しています。

（2）事業費

消耗品費 286,000 円

（22,000 円×13 か所=286,000 円）

会館使用料 24,000 円

（2,000 円×1 か所×12 月=24,000 円）

2. 子どもの遊び場整備事業

（目 的）

子どもやお年寄りはもちろん、障害を抱えた方々にも利用しやすい公園づくりを目指して、地域の子どもや住民の意見を取り入れた公園の整備をしています。

（内 容）

（1）事業内容

平成 7 年度から年 2～4 か所、地域住民がふれあいと交流のできる公園整備をめざして、利用者の意見を出来るだけ広く聴衆し健康福祉部を中心に、庁内関係部課と連携し、既存公園に再整備（リニューアル）について実施する。

よって、遊具や柵等の修理・修繕等は含まない。

（2）事業費

事業予算は 100,000 千円

（工事請負費 93,500 千円、委託料 6,000 千円、事務費 500 千円）

子育て支援施策取組事例

市町村名 北海道勇払郡 早来町

(平成15年4月1日現在)

人 口		保 育 所		幼 稚 園	
総 人 口	児童数（うち就 学前児童数）	か所数	定員数	か所数	定員数
5,442 人	869 人 (244 人)	3 か所 (全て僻地)	230 人	か所	人

<市町村の概況及び特色>

北海道の道南に位置し、胆振支庁管内の東北部にあり、東に厚真町、西に千歳市、南に苫小牧市、北は追分町に接しています。市街地中央を国道234号が縦貫しており、遠くに日高山系・夕張山系が望め、南部には勇払原野がひらけています。札幌市内まで55km（車で約1時間20分）、千歳空港まで19km（車で約20分）、苫小牧市まで22km（車で約25分）となっています。気候は、雪が少なく、一般に温暖で秋から冬にかけて晴天が多い地域です。降水量は夏期に比較的多く、冬期間は少なくなっています。

人口約5,400人、総面積は154.61k㎡、農業を基幹産業とする町で、特に酪農の歴史は古く、これまで先駆的な役割を担ってきています。1933年にはチーズ専門の工場が操業を開始するなどチーズ発祥の地でもあり、現在はカマンベールチーズ、ブルーチーズの生産が行われています。このほか、カリンズワインやグリーンアスパラ、胡蝶蘭など地域の特性を生かした特産品も数多く発信しています。又のびやかに広がる牧歌的な緑の大地では、酪農・畜産・軽種馬農業が大規模に行なわれています。

町内には、6ヶ所のゴルフ場があり、おだやかな広陵が続く早来ならではの緑のフィールドが人気となっています。

総合運動公園「ときわ公園」には、パークゴルフ場やテニスコート、野球場、屋外スケートリンクなどが整備されています。その周辺には常設テントやログハウスがあるキャンプ場や、アスレチックやジャンボすべり台が人気の「健康の森」、全天候型多目的運動施設「せいこドーム」などがあり、アウトドアのみならず様々なスポーツが満喫できます。

商工会青年部が地域の活性化を図るため「笑顔」に注目。町民の投票で「笑顔大笑」を決定して、地域のPRする取組が平成8年から始まりました。現在では、町外でも意外な評判を呼び、「笑顔フォトコンテスト」や「笑顔風揚げ大会」へと発展。素敵な笑顔が広がっています。

<子育て支援施策の現状>

保育関連～本町にはへき地保育所が三箇所あり、平成15年4月1日現在107名の児童が入所しています。（早来保育園72名、安平保育園13名、遠浅保育園22名） 入所児童

は、近年の人口減少及び出生率の低下により減少傾向にあります。共働き家庭の増加等に伴い、保育需要の多様化の傾向がみられ、現状の問題点・保育需要の把握を行なうため平成12年度に子育て中の保護者を対象としたアンケート調査を行なった。平成13年度には、保育時間の延長、安平保育園においては1・2歳児の受け入れを行ない、現在においても、多様な保育需要への対応を検討しながら進めています。また、平成12年度からは子育て支援ルームを開設し、「子育て相談」「親子の広場」や「支援ルームの開放」など子育て家庭への援助体制の充実を図っています。平成14年度より教育委員会との連携を図り、子育て講座や各種講演会の共催事業を設け、各種行事での託児や子育てサポーターの育成などに取り組んでいます。また、障害児保育に関しては、保健師と連絡調整を取り合い、相互に参観、カンファレンスへの参加などを行なっている。

<子育て支援施策の課題、展望>

保育関係の課題として第一にあげられるのが、保育所の運営方法の見直しである。現在、本町において就学前の幼児を受入れられる幼保を含めた施設として、早来・遠浅・安平各地区にへき地保育所が計3箇所ある。いずれも定員割れをしているため、各地区に住む就学前の子どもたちをほぼ受入れている。入所年令が早来・遠浅保育園においては3歳児以上から、安平保育園においては1歳2ヶ月から入所となっているが、低年齢児の需要の多い早来保育園においては施設的な問題もあり低年齢の受け入れは行なっておらず、保育に欠ける3歳未満の幼児は安平保育園まで通所している。

現在は、保育に欠ける子、欠けない子が違う保育内容や施設において過ごすのではなく、同じ保育園において生活し、小学校にもほぼそのままあがり、保小のつながりが持ちやすいという良い面もあるが、給食や保育時間、入所年令を考えた時にどのような運営方法が良いのか、良い面も残しつつ、改めて見直してみる必要がある。(※各保育園は、給食なくお弁当、保育時間8:00~17:30)小規模の自治体がどのような幼保施設を設置するのが、子どもや親にとって良いのか、ニーズ調査などを通して検討していく。

また、子育て支援事業として子育て支援ルーム、教育委員会、保健師など、それぞれで取り組んでいるが、やはり、総合的なプランや窓口があり、利用者が分かりやすく、住民が子育てを支援しようとする気概を育てるという行政の姿勢が必要に感じる。それぞれの担当が別々に事業を行うのではなく、より先をみた横の連携、共通のビジョンが必要に感じる。

また、子育て支援事業について、参加者が保育園に通っている親や比較的積極的な親が参加している現状から、引きこもりがちな、本来もっと交流の場が必要と思われる保護者の参加をどのように促していくか。民生児童委員との連携を模索している所である。

こうしたことから、行動計画を町全体で立てることにより、現状の問題点の共通理解と計画に対する連携を持った取組ができる体制を整備する。

<取組事例（平成 15 年度）>

1. 子育て支援ルーム「ポニー」による子育て支援事業

（目的）地域全体で子育てを支援する基盤を形成するため、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導等を行う子育て支援センター事業を実施、もって育児支援を図ることを目的とする。

（内容）

（1）事業内容（具体的に）

保育園に併設された子育て支援ルーム「ポニー」では、地域に根ざした子育て支援活動を目指し、保育園はもちろん、学童保育所、民生児童委員、教育委員会、保健師などとの連携を密にし、積極的に支援事業に取り組んでいます。

具体的には

- ① 親子の広場～親子で楽しく過ごし、子育て中の親同士がふれあう場。「シャボン玉で遊ぼう」「ミニ運動会」「保育園で遊ぼう」「みんなでクリスマス」など毎回遊びのテーマを設定し、実施するほか指導員や副園長などによる、ペープサートや人形劇なども行なっている。平成 14 年度においては世代間交流として、視覚障害をもちながら本町を拠点として音楽活動を展開している「スマイル 4 Beat」（富門華寮生）を招き、子どもと親のみならず、婦人会、学童保育所などの一般の参加者も集い、親睦を深めた。
- ② 広場の開放～学童保育所の空き時間、保育園フリールームのいずれかを週 1 回一般開放し、誰もが気軽に集える場所の提供を行う。
- ③ 子育て講演会の開催～子育ての中で出てくる様々な疑問や乳幼児期の大切なことなどに関する知識を学ぶ講演会を開催しています。託児室も用意し、子ども連れの方も安心して参加しています。この他、教育委員会との共催でも講演会を実施しています。
- ④ 子育て相談～支援ルーム担当者が電話、面談にて、平日 8：30～17：30 まで行なっています。
- ⑤ サークル支援～町内に 2 団体あるサークル活動に対し、要望により、ペープサート・人形劇の上演や行事の手伝い（鬼、サンタなどに扮する）、また、遊びの指導、遊具・絵本の貸し出しなどを行なっています。活動場所として学童保育所を開放しています。
- ⑥ 支援ルーム便りの発行～支援ルームの活動予定や様子、子育てに関する知識を提供しています。（月 1 回）また、町の広報等も利用して、月の行事予定などをお知らせしています。

この他、教育委員会・保健師との協力による各種子育て支援事業に取り組み、町を上げての子育て支援事業の推進に努めています。

（事業費）

子育て支援ルーム指導員等賃金	2,800,000円
講師謝礼金	20,000円
資料及び教材費	122,000円
計	2,942,000円

2. 保育園児と小中生の交流

(目的) 普段なかなかふれあう機会のない保育園児と小中生が交流を持つことにより、他者への思いやりや社会性を育てる。

(内容)

(1) 事業内容 (具体的に)

早来町に一箇所ある町立中学校においては毎年2年生が「職場体験学習」として町内の各事業所や保育園において体験学習を行なっています。保育園を希望した生徒に関しては随時受入れ、保育体験をしています。保育体験を行う前には園長及び副園長と保育にあたる上での注意点や質問事項など面談をした上で保育園児と1日生活をともにしている。保育士の仕事の大切さや大変さ、子どもたちへの愛情など様々なことを感じ、体験を終えています。

安平小学校では毎年、地物のそば粉を利用してそばを作る「そばまつり」を行なっているが、そこに安平保育園児を招待して、交流を深めている。地域柄、普段から保育園児が散歩の時に小学校へ来校したりし、保小の連携をスムーズに行なっている。

早来町では、毎年、就学児童に関する保育園・小学校の打ち合せを行なっているが連携をより深める為に今年度から年一回、相互の保育及び授業参観(期間一週間)とそれに基づいた保育及び教育内容の情報交換を予定している。

(2) 事業費

なし

3. 子育てサポーター養成講座

(目的) 子育てサポーターを養成し、町民による子育てネットワーク構築することにより、より細やかな子育て支援へつなげていく。

(内容)

(1) 事業内容 (具体的に)

教育委員会、子育て支援ルーム(生活環境課)、保健師(健康福祉課)の共催により、養成講座を年間2期、開催する。参加対象は、子育てに興味のある方、子ども好きな方でI期10~15名程度。養成講座をI期4回行い、このうち3回以上講座を受けた方を子育てサポーターとして登録し、イベントや講座での託児協力や子育て支援事業への協力、保育園送迎の代行などの活動を行う。

講座の内容としては、保育士による保育のポイントと安全対策及び保育実習、子育て支援の背景と現状について、保健師による子どもの発達と生活習慣についてなどをおこない人材の育成を図る。

(2) 事業費

講師謝礼金 40,000円

4. 乳幼児・小中学生に対するプールの無料開放

(目的) 子どもたちがいつでもプールに楽しめるよう、町内のプールを無料開放とし、子育て家庭への支援及び健康推進、スポーツの振興を図る。

(内容)

(1) 事業内容 (具体的に)

町内の3箇所(早来町民プール《温水》、遠浅町民プール、安平町民プール)のプールを町内に在住の乳幼児・小中学生に対し無料開放としている。

小中学生に対しては、学校を通し無料券を配布し、全児童無料とし、就学前の児童に関しては、保護者が申請をすれば、無料券を受給できる。

また、町内の保育所の利用(6月~11月迄、月4回程度)に関しても無料とし、生涯を通じたプール活動推進の為、各保育園に月一回、プール指導員を派遣しプール活動の推進も行なっている。

(2) 事業費

5. 子育て情報誌の作成

(目的) 子育てを支援する事業の一環として、早来で子どもを育てる上で役立つ情報をまとめ、転入者や子育てを始めたばかりの人などへの情報を提供していくとともに、子育てをしている親にもこの取組に参加してもらい、親同士や親と地域のつながりを深めることを目的とする。

(内容)

(1) 事業内容 (具体的に)

教育委員会と子育て支援ルーム共催により行う。教育委員会では公募、事業費の支出を行い、支援ルームでは場所の提供、編集委員への情報提供、アドバイス等を行う。

5月に編集委員(情報誌の作成や子育て支援に興味のある方)を公募し、6月上旬に第1回目の参加メンバーでの打ち合わせを行い、作業の時間帯や編集作業の進め方などを決定していく。作業場所は、学童保育所及び支援ルーム、保育園フリールーム他にて行い、初期の段階で取り組み概要を説明し、その後は編集委員が主体的に作業を進められるようにする。

(2) 事業費

編集作業謝礼	40,000円
印刷製本費	70,000円
計	110,000円

6. 子育て支援交流事業

(目的) 親子のふれあいを深めるとともに親同士のつながりの機会とする。

(内容)

(1) 事業内容 (具体的に)

教育委員会において、家庭教育・子育て支援事業の一環として、親子を対象に様々な

教室を開催する。

① 親子料理教室

講師を招き、親子10組を対象にケーキ作りを行う。子育て支援ルームの協力により託児も設定し、小さい子ども連れの親子でも安心して参加できるようにする。調理実習、試食及び懇談を通じ、親子のかかわりを深める。

事業費 50,000円

② 親子森林教室

町内に生息する蛍の観察会を通して、地域の自然に親しむとともに、自然環境について学習しながら、親子のふれあいを深め、親同士のつながりも深める機会とする。

中学生以下の子どもと親子を対象に(15組)講師による蛍の学習会、蛍の観察会を行う。

事業費 20,000円

③ 親子のふれ合いコンサート

普段あまり触れることのない音楽コンサートを開催し、親子で楽しむとともにふれあいを深めることを目的とする。子供向けのバンド「パフファミリー」を招き、幅広い年齢層で楽しめるプログラムを演奏し、中学生以下の子どもと保護者及び家族を対象とする。当日には、開催前に個人及び子育てサークルなどに対し募集した「クリスマスツリーの壁面工作」を展示し、注目を集めた。

事業費 400,000円

7. 保育所と学童保育所の交流

(目的) 普段関わることの少ない、保育園児と学童保育所児童(小学生)の交流を進めることにより、異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさや助け合い、協力し合う大切さを知る。

(内容)

(1) 事業内容(具体的に)

平成14年度に学童保育所の運営主体が社会福祉協議会から早来町生活環境課に移行したのに伴い、早来保育園横に早来町学童保育所を移設した。隣接することにより、学童保育所と保育所の交流をスムーズに行い、学童保育所のこどもたちが保育園園庭やホールなどで一緒に楽しく遊んでいる。また、学童指導員も保育園勤務経験者を配置し、職員同士でも保育内容を共通理解した上で交流を図ることができている。

(2) 事業費

なし

8. のびっこ教室（早来町幼児教室）等の開催

（目的）この事業は、心身の発達につまずきのあるもの、育児に不安をもつものに対しての通園の場を設けて、生活習慣の確立など基本的な指導及び相談を行うことにより、児の健やかな発達を助長することを目的とする。

（内容）

（1）事業内容（具体的に）

早来町保健センターにおいて、子どもの健やかな発達のため、保健師及び指導員が親子への遊びの指導、相談を行なっている。

対象児童は、町が実施する各種乳幼児健診を通じて、言語、行動、精神発達面で何等かの問題がある児、児自身には特に問題がなくても、親側に強い育児不安がある場合、家庭で療育を続ける障害児としている。親が子どもと一緒に遊びに参加する過程を通じて発達を促すことを目的とし、週一回、およそ2時間行う。

保健所、児童相談所、各学校、保育所など関係機関との連絡を密にし、指導が円滑、効果的に行われるようにしている。

（2）事業費

保育士賃金	216,000円	（のびっこ教室）
相談員賃金	677,000円	（ひまわり教室）
謝礼	198,000円	（臨床心理士など）
教材費	66,000円	
保険料	16,000円	
委託料	92,000円	（社会福祉法人 富門華寮指導員）
備品	39,000円	
研修会負担金	10,000円	
旅費	59,000円	
計	1,625,000円	